平成18年度 決算

当院の平成十八年度経営状況をお知らせします

平成18年度は、診療報酬の引き下げ改定や、全国的に問題となっている地方自治体病院の医師不足など、病院経営を取り巻く環境は厳しいものでした。

その中で、平成18年10月からは、市民の皆様のご理解・ご協力により、救急医療体制の見直しを行ったほか、今後、急性期医療を担う病院にとって必須となるDPC（診断群分類包括評価）制度の導入準備や外部機関による経営分析を実施しました。

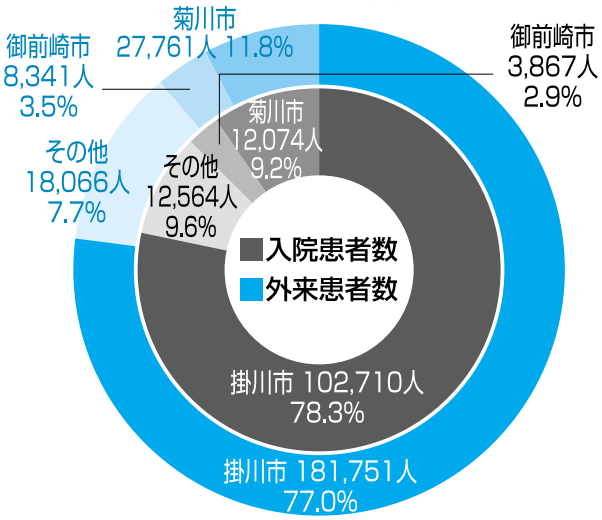
経営状況ですが、入院・外来とも患者数が前年度に比べ減少したことにより、医業収益が減少しました。特に外来患者の減は、病診連携を進めていることによるものです。

一方、医師の処遇改善に要した経費や診療材料の増により、医業費用が増加しました。その結果、病院事業収入は、87億8、956万円、病院事業費用は91億708万円となり、差引3億1、752万円の純損失となりました。

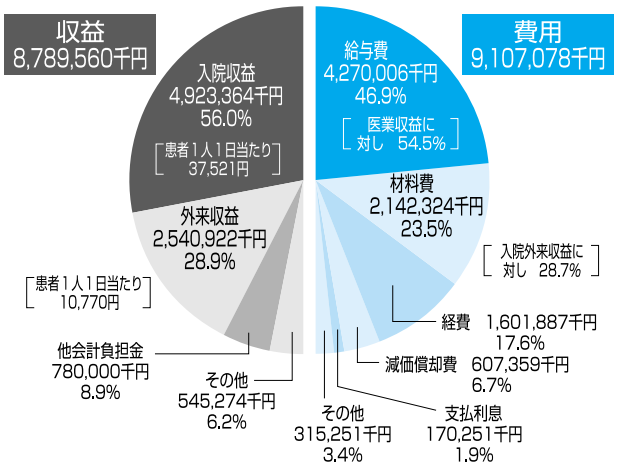
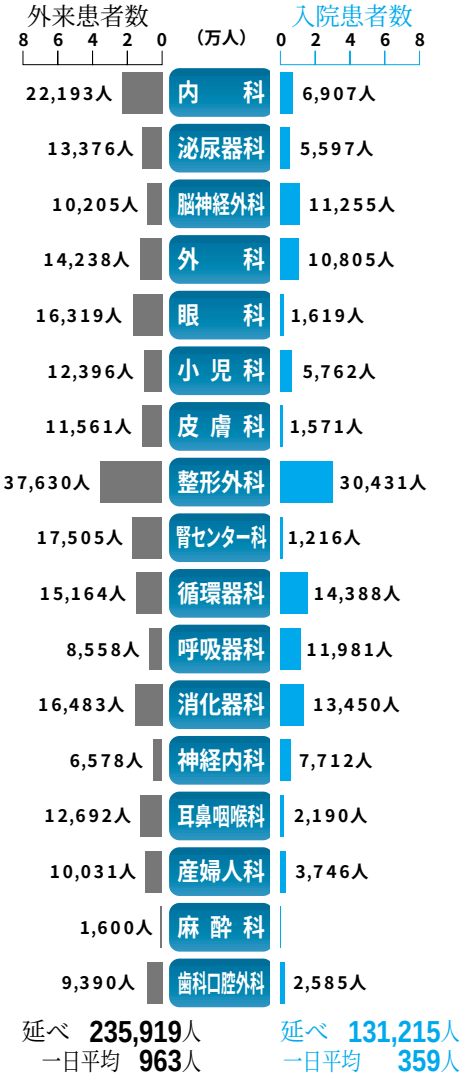
また工事関係では、施設や設備の老朽化対策として、ナースコール設備の更新工事等を実施したほか、超音波画像診断装置等の医療機器を整備し、医療の高度化、患者サービスの向上に努めました。

平成19年度におきましても、病院を取り巻く厳しい状況は変わりませんが、病院の基本理念である「地域の中核病院として、愛365日の心で、優れた医療の提供」を実現するため、経営改善を進めるとともに、今後の中東遠地域の医療のあり方について検討を深めて参ります。

○地域別患者数○



○収益的収入支出○



○科別患者数○